

第五章

本堂再建

第五章 本堂再建

一 本堂再建に至った経緯

大正四年（一九一五）に西宗寺の本堂が火災により焼失した。

幸いにして、御本尊と御掛は近隣の人々の手によって外に運び出されて、難を逃れた。

再建された本堂も老朽化が進み、狭隘なこともあって、聞法の道場である「本堂」をいつか新しく建立したいという声が、機会あるごとに門信徒の中から挙がっていた。

そんな矢先き、平成二年（一九九〇）に（有）豊和不動産から、住宅団地（あじさい団地）の開発にあたつて、西宗寺の寺山を譲渡して欲しいとの話が持ち込まれた。

それを契機に本堂再建の機運が高まつた。

二 門信徒への対応

平成二年八月に門信徒役員会を開催、（有）豊和不動産から寺山の譲渡についての話があつたことを報告、

その中で住職から、「山林は住職個人のものでない」ことを業者に伝えたことの報告があった。

平成四年に入つて、再度役員会を開き、山林売却についての意見交換を重ねたが、結論的なものは出なかつた。

平成五年四月に、(有)豊和不動産から、山の古墳発掘調査の要請があり、同意するにあたつて、調査場所の面積、立木補償、出土品の所属、団地造成計画など、役員会で多くの意見が出された。

同年十月及び十二月の役員会では、山林売却と本堂建立とを重ね合わせた意見が出された。その中で売却益、税金問題、代替地、本堂と交換など意見が続出した。

そうした意見交換の中で、住職から「寺のあるべき姿を全員が認識すべきであり、現況の本堂と同じ物を考えるのではなく、建物は無論のこと、仏具なども含めて考えて欲しい」など、本堂建立についての考え方方が示された。

平成六年八月の役員会では、本堂建立には時間をかけて議論する必要があるという意見があり、山林売却と本堂建立は一緒に考えるべきでないとの意見もあつた。

一方、住職からは「先祖から維持してきた土地を売つていいものか、しかし本堂も老朽化が限界にきている」としながらも、「理想の本堂は六、七間四面のものが望ましく、あくまでも門信徒全員の総意に基づいて建立しなくてはならない」、「そして懇志によつて建設したい、山林の売却代金は基金としてそれに充てるのが筋道ではないか」など、本堂建立に前向きの兆候が見えてきた。

同年十二月に(有)豊和不動産から、売買価格の提示がなされた。

坪単価 一六、五〇〇円 面積 九、〇七三²m (一、七四三坪)

売買代金総額 四五、二八四、〇〇〇円

平成七年一月に役員会を開催、山林の売却代金は本堂建立の基金とすることを確認、同年二月の門信徒会総会において、山林売却に関する事項は、基本的に賛成の議決がなされた。

平成八年一月の役員会で、山林売却の方法は新役員に委ねること(ゆだ)とし、その後、再度役員会を開催、新役員の選出を行つた結果、次の方々に決定した。

会長 小山 真 副会長 内藤静夫 財務係 加納康雄 庶務係 永見仲治

平成八年十二月に入つてから、本堂建立に向け、検討委員会を立ち上げ、門信徒の理解と協力を求めるため、本堂の規模、建築費、設計管理及び内陳修復などの予算概要、門信徒の懇志額、今後の進め方などを検討した。

本堂再建検討委員会

委員長 永見仲治

委員 小山 昭 加納公夫 井上富雄 野津晴美 野津達夫 井上威久男 高野顯信 (住職)

検討委員会の報告書は次の通りであるが(資料14)、平成九年一月、門信徒総会を開催、検討した結果を報告し了承を得ることが出来た。

その後、各地区別門信徒会を開き、更に理解と協力を求めることになり、同年三月五日から二十二日の間、七ヶ所(下東川津、納藏、西尾、石野、橋南橋北、上東川津、市成)で説明会を開催した。

検討委員会報告書

平成9年1月26日

役員会の委嘱をうけて慎重に審議検討した結果、次の結論にいたったことを報告いたします。

1、天正年間より続いてきた西宗寺の財産を、歴代の先祖は連綿として維持、管理してまいりました。しかし、この度、豊和不動産の川津開発の一端として、宅地開発に提供を余儀なくされました。種々検討審議した結果、門信徒総会を経て、売却することに結論が出ました。

2、譲渡金は、その性質上、西宗寺の維持、発展のために無駄にすることなく有効に活かすことが、先祖先人にに対する感謝であることを忘れてはならないと考えます。

3、この気持ちを最大級に活かすには、私たちの聞法の道場の中心である本堂を整備することが、一番の有効利用にふさわしい方法と考えます。

現在の本堂は、私たちの先祖や先輩が、火災後苦労して建立されました。市内の浄土真宗寺院と比較しても、極めて風通しがよく、白蟻がつき、建て付けの悪い、厳しい状況下にあります。この意味に於て、再建に向けて努力することこそ最大のご恩返しではなかろうかと考えました。

4、阿弥陀如来さまの宮殿（くうでん）、須弥壇（しゅみだん）は、火災後他寺からの頂きもので、古く、現状に即していないものあります。このたび仏縁によって繋がれてきた財産からの基金も、それに活かされれば、いっそう有り難いお返しになるのではないかと考えます。

5、譲渡基金4500万円は、目下のところ定期預金にしておりますが、現在の利息は非常に低金利であるため、消費税、物価の値上がりのほうがはるかに大きく、さまざまな修復でその場をしのぐことが、逆に基金の減少をもたらす恐れがあります。

6、基金4500万円に加えて、住職より1500万円懇意の申し出がありました。この懇意を合わせた6000万円の上に、門信徒の皆さまのいかほどの応分のご懇意を仰ぎ、本堂を再建することが大切であろうと考えます。

具体的な本堂の規模は、必要最低限一畳に2名座るとして36畳が必要となり、6間四面の大きさとなります。

建築費、設計管理（特殊建築なので不可欠）、及び内陣修復、消費税を含めて総予算9500万円の基本計画を立てました。

門信徒の方々には、この趣旨をお汲み取り頂きまして、概算月額9500円で5年間（またはそれ以上）の借入金で50万円をお願いすればと思います。また、さまざまな方面の方に特別懇意を依頼し、次の世代に残る、きちんとした形の聞法の道場を作っていきたいと考えております。

以上、平成7年度、8年度の総会の提案をうけて、前向きに検討せよとの役員会の依頼により、検討委員会が出した結論を報告いたします。21世紀へ向け西宗寺の発展を願って、現在の私たちが総力を結集して実現させたいという観点からまとめさせて頂きました。

検討委員 永見仲治 小山昭 野津晴美 加納公夫
井上富雄 野津達夫 井上威久男 住職

平成九年四月十三日、門信徒臨時総会を開催、地区別門信徒会で出された多くの貴重な意見を踏まえ、検討委員会委員長永見伸治氏から詳細な報告があつた。

その結果、万場一致で経過報告の了承を取り付けた。特に本堂建立に要する予算の中で、門信徒各戸からの応分の懇志取り扱いが懸念されていたが、山林売却代金四、五〇〇万円を基金とし、住職から申し出のあつた一、五〇〇万円、門信徒各戸から五〇万円の懇志、そして特別懇志金を含め、九、五〇〇万円の予算を承認することに異議がなく、本堂建立に向け一歩踏み出すことになった。

平成九年四月二十八日、先般の門信徒臨時総会の結果を踏まえ、本堂建立委員会を開催、今後の進め方について協議を重ねた。

建設部	設計士選定	設計調印	仮具修理	他寺参観
業者選定	調印	工事日程		
懇志部	門信徒負担方法	取り扱い銀行	特別懇志（外部・内部）	
	設計士、業者への支払い方法			

西宗寺本堂建立委員会

委員長	小山 真	副委員長	加納康雄
建築部長	小山 昭	副部長	加納公夫
懇志部長	永見仲治	副部長	野津晴美
地区代表	野津達夫	野津明男	井上修身
		井上威久雄	田辺 博
			久保田昌美

建立委員の心得

『仏恩感謝の気持ちを大切に、誤りなきよう堂々とした本堂の完成をめざす』

本堂建設趣意書 (門信徒に配布)

門信徒の皆さまには平素から当山の護持、寺門の興隆には深いご理解により、多大なご厚情とご支援を頂きまして、厚くお礼申し上げます。

ご承知のように、西宗寺は天正八年（一五八〇）に尼子の家臣多賀彦三郎が淨土真宗に帰依したことから、四百年以上の由緒ある聞法の道場でありましたが、しかしながら、大正四年の火災により本堂が消失し、苦労の中で門信徒一同の懇志により今日の本堂が再建されました。しかしその本堂も、歳月と共に傷みが増し、白蟻の被害、柱やたてつけのゆがみが激しく厳しい状況になつてしまひました。また、阿弥陀如来様の宮殿（くうでん）、須弥壇（しゅみだん）は火災後、他寺からの頂き物で、古く、不釣合的な大きさのまま今日まで來ました。

このような折、仏縁に繋がってきた財産の山林が、宅地開発のため提供を余儀なくされました。慎重な討議の結果、譲渡金を基金として、現在に生きる住職、門信徒が総意を結集し、本堂を再建することが最もふさわしいとの結論に達しました。

門信徒の皆さまには、ご先祖が維持してこられた西宗寺を、次代にふさわしい心の拠所として整備するためには、皆さまの尊いご淨財をご喜捨賜りますよう、切にお願いいたす次第でござります。

合掌

平成九年二月十九日

門信徒会会长 小山 真
西宗寺住職 高野 顯信

平成九年五月六日 本堂建立の設計及び管理を、(有)矢田建築設計事務所に正式依頼するため、建立委員一同が(有)矢田建築設計事務所を訪れ、本堂の概略と予算について説明をした。その後、(有)矢田建築設計事務所から設計図面と概算工事費が内示された。

平成九年七月二十八日 内陣莊嚴一式の修理を、京都の株式会社若林仏具製作所に正式依頼をした。
平成九年八月二十五日 本堂建立業者（六社）に対し、現場説明を行つた。その際、指名願・工事経歴（特に寺院関係）・大工棟梁の氏名を事前に提出することも条件とした。

業者六社は次の通りである。

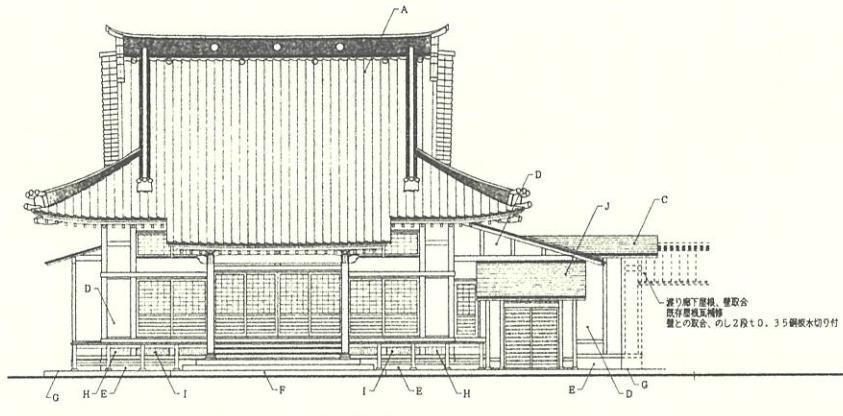
アクト建設株・(株)飛鳥社寺・豊洋工務店株・寿工務店株・カナツ技建工業株・幸陽建設株

平成九年九月十七日 本堂建立業者（六社）の見積書を基に、建立委員会を開き、(有)矢田建築事務所の矢田、加藤の両氏を交え、上位三社について検討した結果、アクト建設株・(株)飛鳥社寺・豊洋工務店株となり、この三社に対し、まだ幾分の差位があり、見積書を再提出するよう要請した。

平成九年九月二十六日 上位三社を寺に招き、再度見積もりをした内容について、各業者から説明を聞くこととした。そして、最終的に業者を決めることにし、建立委員会を開いたが、委員の中で指名業者についての意見が分かれ、調整が困難となつたため、小山昭建築部長に一任することになった。

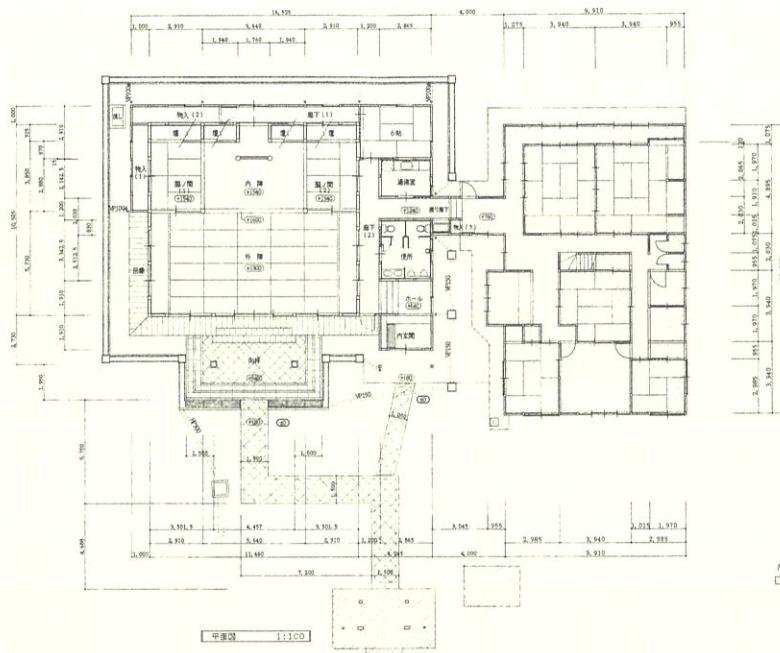
そこで小山昭建築部長は、住職・加納康雄副会長・矢田氏を加え、本堂で慎重に検討を重ねた結果、予定額に近く納得の説明があつたアクト建設株に決定し、建立委員会の了承を得た。

平成九年九月二十七日 報恩講に併せ御遷座法要を執り行い、門信徒に対しその経緯と結果を報告、建



正面立面図 1:100

正面立面図



平面図

設業者をアクト建設(株)に決めたことについて全員異議なく了承することになった。

平成九年九月二十八日 仏具修理のため、京都の株式会社若林仏具製作所に搬出した。
平成九年十月十七日 旧本堂の解体法要を執り行い、御門徒である赤木建設(有)によつて解体作業に入つた。

三 建築実施

(一) 工事請負契約書の調印

西宗寺建立委員会委員長小山眞氏は、請負者アクト建設(株)代表取締役加納信男氏と、西宗寺本堂改築工事について、(有)矢田建築設計事務所代表取締役矢田清治氏を設計監理者として、本堂改築に関わるすべての件に次の請負契約を締結した。

- 1 工事場所 松江市上東川津町八四五番地
- 2 工期 着手 平成九年十一月一日 契約の日から二十日以内
- 完成 平成十年十月三十一日 着手の日から三六五日以内



建立委員会会議

3 引渡し時 完成の日から十日以内

4 請負金額 本文では削除

仏具店に関しては、県内仏具店等を比較しながら委員長・建築部長・懇志部長・住職の間で、平成九年七月二十八日、京都の株式会社若林仏具店と契約した。

(二) 資金調達

懇志部では、平成十年四月十三日の門信徒臨時総会で承認された各戸五十万円、並びに広く親戚知人や、有縁の方々からの特別懇志を門信徒等に呼びかける運動を開始した。

(三) 遷仏法要

平成九年九月二十七日、報恩講法要後、遷仏法要を厳修する。終了後、株式会社若林仏具店の指導のもと、ご本尊を五条袈裟にお包みし、庫裏床ノ間に動座した。翌日、建設委員一同で仏具を修復のため京都に搬送する作業を行った。

(四) 旧本堂解体

御門徒の赤木建設(有)の配慮を頂いて、九月十七日旧本堂の解体に取り掛かる。向拝に式壇をしつらえ、解体式をお勤めした後、三日間で完了した。



御本尊（阿弥陀如来）を御遷座

(五) 起工式

平成九年十一月一日午前十時から、本堂改築地内特設式場において工事関係者、門信徒代表者により、工事の安全と、次世代にもふさわしい立派な殿堂が再建されることを願い厳粛に執り行われた。



日本堂解体式



日本堂解体風景（赤木建設）

当日は好天にも恵まれ多数の門信徒が参集し、これからの完成をめざして乾杯した。

起工式 式次第

一、一同合掌礼拝

一、三奉請（散華） 表白文

一、勤行（讚仏偈）

一、代表焼香 建立委員長小山眞

建設部長小山昭

懇志部長永見仲治 (有)矢田建築設計事務所代表取締役矢田清治

アクト建設

(株)代表取締役加納信男

一、挨拶 委員長 監理者 請負者

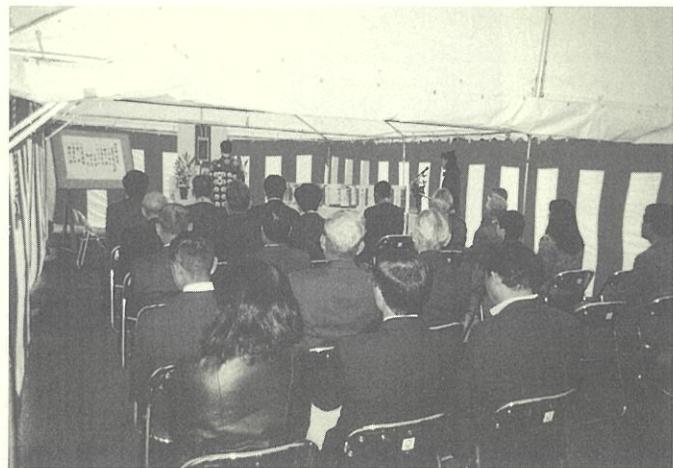
一、全員焼香

(六) 施工事業者等との打ち合わせ会議

(有)矢田設計事務所・アクト建設(株)・建立委員会の第一回打ち合わせ会議を、十一月一日の起工式終了後に開催した。

今後の全工期程の説明を受け協議をした。

○十一月中に地盤改良を含め基礎工事完了



起工式

○一月 土間コンクリート打設
○三月 棟上げ
○四月 屋根仕舞
○五月 瓦工事 内部造作開始
○十月 竣工

今後の諸問題について毎月第一月曜日午後、西宗寺において打ち合わせ会議を開催することとした。

(七) 各月の施工工程

平成九年十一月	柱状地盤改良工事	掘削
	基礎碎石 捨てコンクリート打	打
十二月	基礎コンクリート打設	
	立ち上がり型枠組み立て	
	コンクリート打設	
木材検査		
床下盛土整地・束石据え付け		
土間コンクリート打設		
平成十年 一月		
二月		

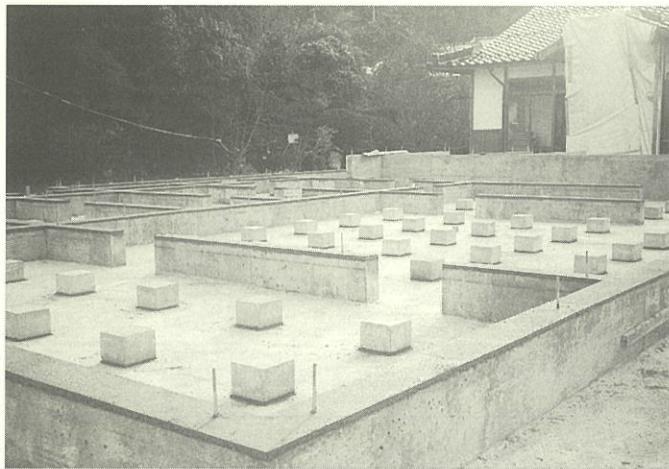


柱状地盤改良工事

土台墨付け加工
下小屋組み立て
向拝木材彫物



基礎配筋工事



コンクリート打設

三月

- 仏具修復 上棟式打ち合わせ
- 木材加工 合掌地組み
- 建方準備 物材搬入

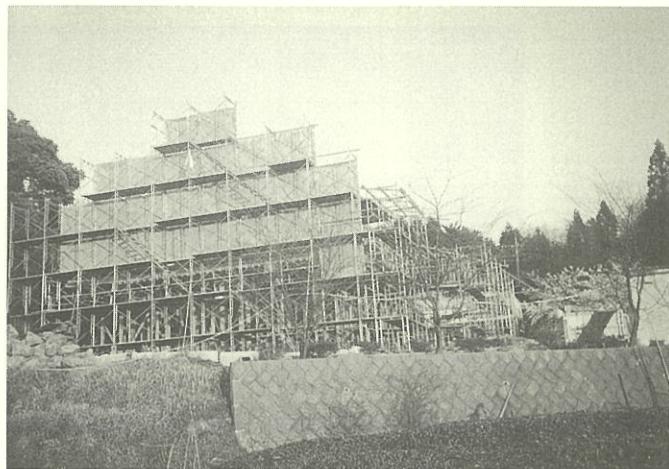


木材加工

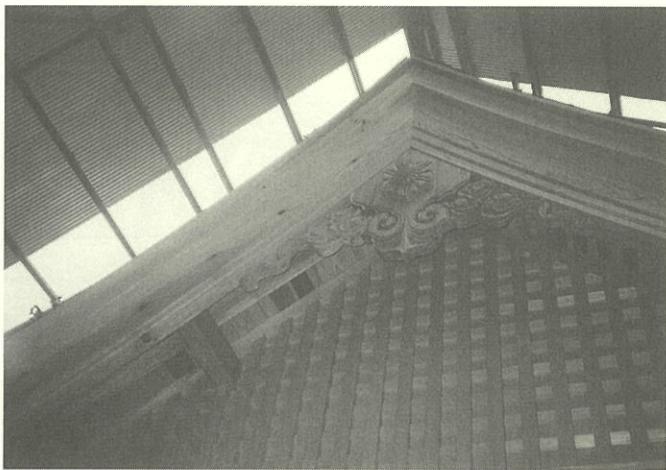


建 方

下屋屋板仕舞い
建て方 上棟式
板金工事



足場組み立て



破風懸魚取り付け

外部足場組み立て スヤ掛け
本堂屋板仕舞い
スヤ掛け 端管組み立て 波板貼り



屋根瓦敷き完了



内棟斗組み

八月	向拝材加工 建て方 軒先周り 野隅木 野タルキ 野地板
五月	破風板登茅負懸魚取り付け 破風格子加工取り付け
六月	下屋関係 瓦工事
七月	設備壁内配管配線 分電盤取り付け 屋根瓦敷き完了 仮設屋根解体 外部壁下地貼り塗り 内陣周り縁 折り天井 脇間天井格子
八月	縁側取付 向拝関係造作 内陣脇間造作



向拝正面

外陣天井格子組他造作

壇造作

外部漆喰塗り



内陣折り上げ天井



役員と共に御宮殿を設置

板囲い下小屋撤去

九月

壇造作

庫裏取り合わせ造作

高欄加工取り付け

内部漆喰塗り

内装工事

畳敷き

淨化槽埋設外部排水工事

墓地参道擁壁工事

内部建具内部仕上げ美装工事

設備電気機器取り付け

金箔工事仦具工事

土木消防竣工検査

工事完成引き渡し

平成十年十月二十八日

株式会社若林仦具店より莊嚴一式設置

以上が工事の施工状況であるが、定例打ち合わせ会議を、平成九年十一月一日第一回開催から、平成十

年十月五日まで毎月開催し、合計十二回の会議の中で、工事の進捗状況、翌月の予定、そして仕様の変更・追加工事等、色々な問題点を設計監理者、施工者、建立委員会で、より良き方策のため討議を重ねてきた。

(八) 上棟式 平成十年三月十四日

(1) 棟木締め

上東川津町八四五の地に、木の香も漂う真新しい木組み、そして堂々たる威容を誇る上屋に、最後の棟木を小山昭建築部長が関係者の見まもる中、門信徒の願いを込めてしつかりと打ち込んだ。

(2) 受付

本堂の屋根に敷く記念の進納瓦を受け付け、門信徒を始め百八十九名の有縁の方々多数のご賛同を得ることができた。

西尾地区門信徒、アクト建設(株)から薦樽の進納を頂き、鏡割りをして参列者に振る舞い、本日の良き日をお祝いして喜び合った。又「仏様の屋根を私達の手で」のもと、瓦の懇志を百八十九名の有縁の方々にお願いした。

(3) 記念式典



上棟式

式次第

一、開式のことば

一、導師入堂

一、合掌礼拝

一、勤行

一、代表焼香 小山眞委員長・矢田清治設計監理者・加

納信男アクト建設社長・棟梁・小山ナツコ仏

教婦人会長

一、委員長挨拶

一、祝辭 矢田清治設計監理者・加納信男アクト建

設(株)社長

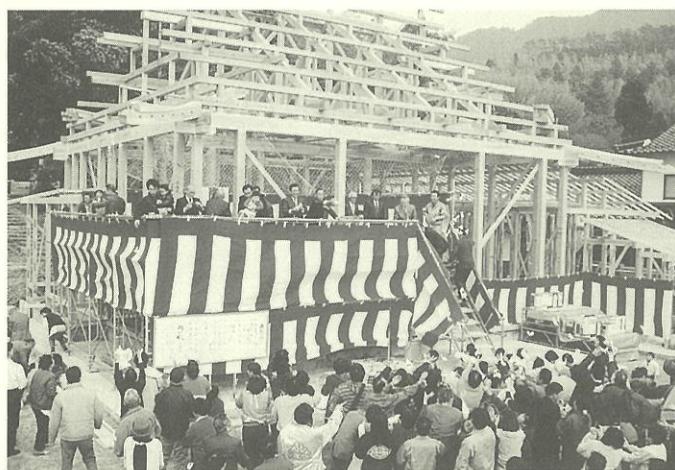
一、参列者焼香

一、合掌礼拝

一、閉式のことば

(4)
餅撒き

上川津・下川津・西尾の三地区門信徒が、三斗宛の餅搗きをしてお供え、記念餅、小餅等を用意した。又、門信徒の稚



餅撒き

稚児達が進納の俵餅を背負い登壇した。いよいよ三時より特設の舞台から天・地・四方に重ねの餅が棟梁達によつて撒かれると、我先きに拾う二百人近い人達で賑にぎやかになり、壇上の稚児達も喜び一杯に撒いていた。

稚児達にとつて、またとないチャンスで一生の思い出となつた事であろう。

(5) 祝宴

下組公民館において、棟梁を始め関係者の労苦に感謝して喜び合い、これから完成に向けて一層の精進を誓い合つた。

四 西宗寺本堂落慶法要

蓮如上人五百回遠忌法要

平成十年十二月六日（日）の早朝は薄曇りであった。早朝から門信徒、有縁の方々、工事関係者、市内寺院法中、近所の方々三百有余人の喜びの笑顔で、境内・本堂は満ちあふれた。



修復なつた御本尊と御宮殿

——ご挨拶——

蓮如上人五百回遠忌にあたる本年、心の拠り所にふさわしい西宗寺本堂が完成いたしました。これもひとえに門信徒の皆様はじめ、多くの有縁の方々の物心両面にわたる、尊いご懇念のお陰と心より御礼申し上げます。

天正十一年以来、様々な歴史の移り変わりの中を今日まで、法灯を継承してまいりました。この度の本堂落慶を機に、蓮如上人の歩みを再確認しながら、お念佛を喜び、多くの方々に広く親しまれる、聞法の道場として発展させていく所存でございます。

皆様方の益々の御指導を賜りますようお願い申し上げます。

淨土真宗本願寺派 西宗寺 住職 高野 顯信
門信徒会会長 小山 真

——記念法要——

- 1 お旅所勤行（矢野昇氏宅）
- 2 庭儀 稚児行列（下組公民館より本堂まで）仏旗・会係・列衆・稚児（三十名）・保護者・結衆導師・寺



お旅所勤業

4 3
族・仏教婦人会
行事鐘
諸僧入堂



稚児行列



落慶法要

5

獻

華

野津美智子

寺本美和子

加納郁雄

野津武志

6

獻

燈

野津悦子

野津和子

田辺悠

松田麻美

7

勤

香

小山富栄

8

諸僧退出

行

無量寿經作法

9

記念撮影

——記念式典——

1

真宗々歌

2

代表焼香

内藤静夫

・小山ナツコ

3

門信徒会会长挨拶

小山

眞

4

本山記念品授与

5

祝 辞

本願寺山陰教区教務所々長

中村晃昭師

6

感謝状授与

7

住職謝辞

——記念講演——

西本願寺総務

大社町乗光寺住職

北島経昭師



感謝状授与

——恩徳讃——（全員で齊唱）

会行事 横田町善徳寺住職（三澤義巧師）
出勤法中 明宗寺（楠信也師）西福寺（西山昭道師）光徳寺（舟越憲雄師）本誓寺（乙部教順師）



記念講演 北島経昭師



祝 宴

真光寺（吉田史章師）順光寺（籠博道師）圓照寺（並木清師）

諷經寺院 遍照寺（雲井泰倪師）本覺寺（石川正伸師）

工事関係者（有）矢田建築設計事務所 アクト建設株式会社 他工事関係者

参拝者 門信徒ご縁の方々 三百余名

△祝宴△

門信徒・出勤法中・講師・業者関係者・参拝者が一緒に、にぎにぎしく祝宴を催した。小山昭氏の軽妙な司会により、参加者一同が心ゆくまで楽しみ語り合った。この気持ちを一人ひとりが心に刻み、西宗寺が聞法の道場として発展することを願つた。立派な堂宇（ハード）が完成した今、新世纪にふさわしいソフト面（ご法義・信心）の一層の充実を心がけねばと、役員一同が改めて誓い合つた。